

CCNがんばろう!!神戸 市民ボランティアネットワーク

《シビルディフェンスシステム》の提言

阪神大震災においては、日本国内はもとより世界中から様々な人々が被災地に駆けつけ、ボランティアとして救援活動や生活支援活動を行いました。実際最も迅速に現場に駆けつけ人命救助活動にあたったのは、他でもない地元住民でした。一刻の猶予も許されない状況下、地域住民の自主的な救援活動のおかげで多くの人命が救われました。けれども、重機を使用しなければ救助できない場合、特殊な知識がなければ手を出せない場合、また、住民相互がばらばらに救助しようとするあまりお互いの救助を妨げてしまう場合など、組織だって動くことができなかったために不本意にも人命の損失を招いたケースも皆無とは言えません。また、老人、病人、障害者もった方々の安否確認や、救出活動の手段、心構えが万全であったとは言えないでしょう。

こういった状況を鑑み、いつ何時発生するかわからない緊急事態に対処すべく、地域住民による自主防衛システムと『シビルディフェンスシステム』の構築が必要不可欠であると考えます。

『シビルディフェンスシステム』構想は、緊急時の防衛手段というだけでなく、今後迎えるであろうあらゆる危機に対する防衛認識を深め、ひいては我々の次の世代がより快適な社会を引き継げるような社会的仕組み作りとして位置づけるためにも、現在産官学民一体のプロジェクトチームを作り、活動しています。

中国雲南省で地震発生

二月三日、午後七時十四分、中国雲南省北東部で、M7という大地震が発生。二月八日付けAMDAからの報告によると、地

震と津波によって、二四八人以上が死亡、一万四千人が負傷し、四一万戸が倒壊する大災害となりました。日本からは、五日のAMDA第一陣で、医師ら八名と、医薬品などを運びました。

神戸では、「あのときお世話になったから、今度は私達が・・・」、「中国の人の苦しみが分かるから、私達こそ励ましたい」という声が、「がんばろう!」に寄せられ始めました。自ら被災して、人の苦しみが分かるから、このまま傍観者でいることはできない、というのです。

そして六日、神戸の人々に突き動かされ、「雲南省に向けて、物資と資金募ります」という「がんばろう!」からの新聞告知。早朝から、事務所の電話は鳴り続けました。

集められた物資は、細かく分類され、単一分類ごとに箱詰めされ、箱の寸法、重量、中身を中国語で表示して、九日(金)約二トンの岡山のAMDA基地に届けられました。二月一日(日)午後一時三十分、AMDAチャーター便は、総計一八トンの救援物資を乗せ、岡山空港から、昆明空港に向けて飛び立ったのです。

「家を失ったつらさは、家を失ったものしに分かりませんよ。いくらお気持ちも分かりますと言ったって、それは絶対に違うんです。できることなら、今すぐにでも私が行きたいくらいです。」
こう叫ぶようにおっしゃった電話の主の声が忘れられません。

《輸送費のカンパを受け付けています》
郵便振替口座／「がんばろう!神戸」
〇一一三〇一六六五六一

◆「CCNがんばろう!神戸」には、地元ボランティアの他に、日本全国からあらゆる年齢層の応援ボランティアが駆け

つけています。その中でも、今回は横浜と神戸の18歳二人に注目し、活動報告をしていただきます。山田直樹君は、横浜から古川君とともに、5日間かけて自転車であつてくれました。もう一人の川端一史君は、地元神戸市北区出身です。みな、さわやかに熱い思いを胸に秘めた若者です。

岡山空港本田倉庫にて

2月10日、救援物資を中国へ空輸するため、岡山に行くことになった。岡山へ発つ朝、愛知県から来てくれた二百人のボランティアを僕たちが「兵隊のように扱っている」と堀内さんに一喝された。救援物資が神戸の人々の気持ちであるという意識が希薄だったのだ。救援物資は「物」から「神戸の人々の想い」へと変わったのだ。そして、岡山へ行くのは神戸の人々と中国の人々の橋渡しの為であると実感したのだった。岡山に到着し、そこで活動しているボランティアの人々が、宗教関係や家族や個人など、本当に様々な人であることがわかった。ほとんどの人が過去にボランティア経験があり、ボランティア活動が初めての僕に、先輩として当時の神戸の状況や活動内容を聞かせてくれた。

今回の中国雲南省救援物資輸送のための岡山行きでは、様々な人と知り合うことができ、友達になった。元公務員でお役所仕事に限界を感じNGOに参加している方、会社を辞めて週末以外は単身赴任をしてAMDAに勤めている方、そのほか様々な形でボランティアに参加している方たちがおり、その活動を見て、今後、僕がこのような活動をしていく上で一つの指標が見つかったような気がする。